

MOZU

府事研だよりOSAKA



No. 143
2015.12.22

大阪府公立学校事務研究会
発行責任者 細野 重幸
編集：同総務部

<http://www.osaka-fujiken.jp/>

第24回大阪府公立学校事務研究大会開催！

開会行事

平成27年11月13日、ドーンセンターにて『明日の教育を担う学校事務を創造しよう』を大会テーマに、第24回大阪府公立学校事務研究大会を開催しました。細野会長の挨拶のあと、来賓挨拶、来賓紹介があり、開会行事を終了しました。



記念講演

『共に生きる～可能性を信じて』—障がい者のスポーツを通して—

講師 高橋 明様

- ・ 大阪体育大学客員教授
- ・ NPO 法人アダプテッドスポーツ・サポートセンター理事長
- ・ シドニーパラリンピック車椅子バスケットボール全日本チーム総監督

高橋様は講演の始めに「椅子に深く座ってほしい」と会場に呼びかけられました。そして「これで車椅子の方と同じ立場です」と続けられ、その事実にはハッと気付かされました。車椅子の方は階段があると登れないし、降りることができない。しかし、車椅子や障がい者＝ハンディキャップではなく、その人が不便だと感じるのがハンディキャップなのだと言明されました。子どもや高齢者、障がいのある人、ない人など様々な人がいるのがこの社会。その様々な人全員が同じ条件になるためには、柔軟な頭で想像力を働かせ、創意工夫をしながら可能性を探ること、すなわち“想像力”と“創造力”の2つの“そうぞうりょく”が必要だと強調されました。

またパラリンピックなどの映像や、ご自身が出会われた障がいのある方のお話を通して生きる力・人間の持つ可能性を提示され、失ったものを数えるのではなく、残ったものを最大限に生かすという逆転の発想や、何ができないかではなく、何ができるか考えることを大事にしてほしいと話されました。

最後に「2020年の東京オリンピック・パラリンピックの後にはもっともっと人に優しい社会が築かれることを願ってやみません」と、近い将来の日本へ願いを込め、締めくくられました。(総務部 西川)

研究発表1

学校事務のグランドデザインを考える
大阪府公立学校事務研究会 研究部

研究部は、2年後の平成29年に全事研京都大会で発表を行います。今回はそのゴールをめざして進められている研究の基礎を発表しました。発表内容は「チーム学校」構想を実現するために、大阪の学校事務の現状を踏まえて、これからの学校事務職員の職務を考える必要がある。かつて特別な業務だったものが、今は、標準の業務になっているように、今特別な業務ととらえられているものが、将来、標準的な職務になっているかもしれない。現在進行形で学校事務職員の職務は変化している。グランドデザインを策定するにあたっては、学校事務職員の使命とは何かを考える必要がある」というものでした。発表の後、意見交流があり、「市町村間、学校間での職務の差があるため、経験年数の浅い方は特に転勤に対して不安を感じている」との意見がありました。また、学校支援地域本部事業をはじめとした地域連携の取り組みに事務職員がどのように関わっていくか等の意見もありました。私自身、現在2校目の学校であり、校種も異なることから、転勤直後は担当したことのない業務もあり、戸惑ったことを思い出します。職務の標準化を進めることも大切ですが、単数配置の多い職種であるからこそ、個々の力量をどのように上げていくかということも、これからの学校事務職員の職務を考えていくうえで大切なポイントではないかと感じました。(総務部 原田)

研究発表2

一人ひとりが互いに高め合える部会を目指して
柏原市教育研究会 事務職員部会



柏原市教育研究会事務職員部会の運営は、2007(平成19)年度から事務仕事の内容を3つに絞り、「班別研修」の形式で行うようになり、年度最終部会には各班の研修内容を冊子にまとめ、発表をするとの事でした。班別にする事により、無理のない個人の活躍の場が設けられ、口頭だけではなく冊子にする事で、研修成果を部員全員で共有で

きるようになったとの事です。

今回は、その班別研修の中のひとつ、「給食事務班」について、詳しい説明がありました。柏原市の給食は「藤井寺市柏原市学校給食組合」が運営しているが、手引書がなかった為、班で作成し、その後も改良を続け、より良いものになっている。作成作業をする中で、学校によって違う手続きしている事が分かり、市で統一ができた。他市からの転勤者もスムーズに事務が行え、2014(平成26)年度から始まった中学校給食にも大いに活用できているという事です。

発表の中で一番興味深かったのは、「研究大会での発表が決まった時、部会の取材班がこれまでの連携を振り返るために、部会顧問の校長先生同席で給食組合との交流を行い、また、教育委員会とも交流を持ったことで、お互いの仕事を知ることができ、課題解決に向けて前進することができた」という話でした。発表を受けた事を負担とするのではなく、この機会に各機関との連携を強め、部員それぞれが力をつけ、部会の運営をよりいっそう活発にしていけている柏原市の方々に感銘したとともに、今の自分ができる「連携」とは何かを振り返るいい機会をもらえたなと思いました。(総務部 松原)

ステップアップ研修

10/22 (木)、6名の参加を得て、アウリーナ大阪にてステップアップ(採用2年目)研修を開催しました。

第一部は「コミュニケーションスキル研修」でした。まずニックネームを決め、質問に漢字1文字で答え、その漢字を選んだ理由をグループ内で交流しました。

第1問「自分を漢字一文字で表すなら？」

第2問「今年の思い出を漢字一文字で表すなら？」

第3問「学校事務職員を漢字一文字で表すなら？」という質問でした。

第二部はワークショップ「未来予想図を作ってみよう」でした。まず付箋にそれぞれが自分の“強み”と“弱み”を記入して大きな紙に貼っていき、自分が書いたものについて交流しました。

次に「自己実現シート」に10年後の自分を見据え、「私は10年後に〇〇〇〇事務職員になっています」というキーワードと「キャッチフレーズ」を記入し、めざす事務職員になるためのタイムスケジュールも作成しました。そのあと、記入したことについて交流しました。

最後に、澤田研修部長が「自己実現シートは大切に保管し、10年後にもう一度見直してください」と締めくくりました。(総務部 谷岡)



研修講座

11/27(金)、アウリーナ大阪「金剛の間」にて、多聞法律事務所 弁護士 中川 勤太様をお迎えし『学校における「お金と法律の話』』というご講演をいただきました。

冒頭、学校におけるコンプライアンスについてのお話があり、「事務職員は、学校現場における会計関係のコンプライアンスの要の職責を担っている」と言われました。

次に学校における経費について説明があり、義務教育における授業料の取扱いや給食費、副教材費、修学旅行費など、学校で必要とされる経費は法律上どのように示されているのかといった話がありました。

加えて、地方自治体における経費支出制度の概要の説明があり、学校における公金の取扱いや公金に関する事例、及び裁判例を基にした説明がありました。

それらを踏まえ、休憩後、学校徴収金(準公金)についてのお話があり、学校徴収金は法律上、どのように位置づけられているのか、未納者へは、法的にどのような対応ができるのか、など判例を織り交ぜながら、お話していただきました。

そして、判例を基にした事例問題を近くの人と話し合い、どのような答えが導き出されるのか検討しました。

最後に、まとめとして「学校現場における“お金”については、法律上、きちんと明記されておらず、学校徴収金の位置づけなど、複雑である。そのため、“お金”についての原則論が重要となり、学校事務職員のコンプライアンスの要としての役割が重要である」と締めくくられました。(総務部 長澤)



評議員会

11/27(金)、アウィーナ大阪にて第21回評議員会を開催しました。
松原市立松原第六中学校の山本さんと羽曳野市立峰塚中学校の大島さんが議長に選出され議事に入りました。

役員会から会則改正を行うための臨時総会の開催について提案があり、賛成多数で可決されました。会則改正(案)の内容については、以下の通りです。



現行会則施行後3年目となり、一定の整理ができたため、役員会の業務のスリム化(少数精鋭)を図り、副会長・総務部次長の役割を明確化する。(会長・総務部長の補佐)
それに伴い、役員の数数を副会長3名から2名に、総務部次長2名から1名に改正する。

(総務部 藤後)

編集後記

この季節になると、子どもの頃の記憶がふわりとやってきて、胸がジンジンすることがある。

朝、友達と氷が張った水たまりをつつきながら登校したこと。
毎日家に帰ると、とびきり温かい家で笑顔の母が出迎えてくれたこと。
サンタクロースが来てる!と、飛び起きた時の喜び。
鼻とほっぺたがツンとする感じ。
教室のストーブ周りでおしゃべり。

とりとめのない記憶が押し寄せて、少し切なくなると同時に、学校の子どもたちの笑顔を見ていたら、きっと大人になったら思い出すであろう大切な毎日を生きているのだな、と今度は心が熱くなる。

この子たちの笑顔が一つでも増えるために、何か私にもできることを。
そんな気持ちの毎日です。(中)

